

謹賀新年

令和3年を迎え、橋本町長と濱中町議会議長からの、町民皆さまへ向けたメッセージをお伝えします。

対話から生まれる心の通う町



現下の社会情勢は、収束のみえない新型コロナウイルスの感染拡大化、更には地球温暖化がもたらす気候変動に伴う、自然災害の発災等、地球上に存在する全ての動植物に大小様々な形で、環境に影響を及ぼすと同時に、とりわけ我が本土においても、日本列島各所において、天変地異の恐怖を目の当たりにした年であった事は申すまでもございません。

今年こそは災害のない平穏な年である事の熱い願いを込め新年をお迎えになられた事と存じます。

不肖、私、橋本聖二も同様、乗り越えなければならない難関に直面するも、町民皆さま方のご尽力のお陰で熱い希望を燃やし、新年を迎えることができました。厚く感謝申し上げます次第です。

本年も「みんなで作ろう 日の出町！」を合言葉に、旧に倍して更に強化を図り、一寸の虫にも五分の魂の心意気で取り組んで

まいる決意を新たにいたしましたところ です。

本年も宜しくお願ひ申し上げます。

私からは、新年にあたりひと言、町民の皆さまにご挨拶と、私の町づくりの一端について申し上げたいと存じます。

我が日の出町は昭和30年6月の新村「日の出村」の誕生から、本年は満65年の節目となります。これまでの間、先人達の英知と努力によって時代の要請に応じた理想郷の創造を目標に営々と汗を流し、今日に至っております。

その中であって、日の出町は三多摩26市町から出される廃棄物の最終処分について、昭和59年の谷戸沢処分場開場から始まり二ツ塚処分場、更にはエコセメント化施設と3施設を受け入れて協力しております関係上、時代の変遷と共に環境問題に関心が高まる中、負のイメージの払拭は避けられず、引き続き、環境にやさしい町づくりを掲げて、「環境先進都市ふるさと日の出」を基調とした環境に配慮した町づくりの推進に鋭意努力してまいる所存でございます。

改めて、時代に即した施策の構築をはじめ行政全般について次の3点を重点事項として定め町づくりの方向性について検証してまいります。

重点事項

1 新型コロナウイルス感染症の感染拡大は経済活動をはじめ社会生活全般にわたり大きなダメージを与え、町財政運営の柱となる財源確保にも様々な形で影響を及ぼし、この状況は当面の間は避けられないものと思われま

(1) 町税収入の減収

(2) 国から交付される地方交付税減の影響
(国民が納める国税4税が財源)

以上の事情を鑑み実施する各施策は、国策である全世代型社会保障との整合を図り、継続事業はストップしない、住民サービスは低下させない等の基本姿勢を踏まえ、次世代に禍根を残さぬ施策となるよう検証してまいる考えです。

2 日の出町は平成元年に現庁舎に移転し、町民皆様方の健康、生命を守る立場に立って業務を続けております。以降、30年にわたる歴史の歩みの中での変化は

(1) 行政人口の増加から減少

(2) 複雑多岐にわたる高度な住民ニーズへの対応

(3) 少子高齢社会の進行

(4) ライフスタイルの変遷

以上の社会状況を踏まえ、行政としての働き方改革は避けられず、その一つとしてワンストップで気軽に相談できる窓口(業務)を新設し、少子化対策における改革を実施してまいります。

3 日の出町は昭和45年12月に本町の全域にわたって「市街化を促進する区域(市街化区域)」と、「市街化を抑制する区域(市街化調整区域)」の都市計画区域区分の線引きが決定され、50年の歳月を経て、これまで様々な土地利用の活用によって、今日に至っております。

現在は平井地区の台地部は亜細亜大学運動施設、油田耕作地等が整備され、さらには平成14年3月に国家的なプロジェクトである圏央道の供用開始に伴い、三吉野工業団地、イオンモール日の出が建設され無秩序な乱開発を回避した、付加価値の高い土地利用として活用されております。

一方、平井川や都道184号奥多摩・あきる野線上の後背地域に分布する既成集落につきましては、建築基準法の許可条件(特定行政庁が指示する基準)の下に、用途に応じた建築物が開発されベッドタウン化の様相を呈してまいりましたが、現在は、環境の変化や様々な状況の変化もあることから、良好な住環境の向上のために都市整備について検証する時期にあると考えております。

このように、「道路」と「河川」は快適な生活や円滑な社会活動と、自然災害の被害を最小限に抑えることなど大切な役目であることの認識に立ち、秩序ある都市施設の良好な住環境の整備の方策について町民皆さまの意見等を尊重し、今後の日の出町の「道路」と「河川」を中心としたインフラ整備の在り方について、検討を始めます。

以上、町づくりの方向性について申し上げてまいりましたが、負の歴史に名を連ねるであろう新型コロナウイルス感染症の感染拡大を踏まえ、改めて町づくりの方向性について、適正かつ広義な立場に立脚し、慎重に情勢を見定め取り組まなければならないと思ひます。

従って、多くの先輩方が艱難辛苦を乗り越えた末に、今日の日の出町がある。この「温故知新」の精心を重く受け止め「心豊かな人づくり」、「災害に強い光輝く活力に満ちた町づくり」を基本目標として、新時代創造の指針を皆さまと共に定めてまいりたいと存じます。

本年も、私共同様、職員一丸となって「行政は人なり、人は心なり」の心境で、日々精進し、常に研鑽を積み、「牛の歩みのごとく」力強く台地を踏みしめ、「みんなで作ろう 日の出町！」を合言葉として、公共の福祉の向上を目指し努めてまいる所存です。

どうか本年は、感染症を克服し災害のない平穏な年となりますよう、衷心よりご祈念申し上げます新年の挨拶とさせていただきます。

日の出町長

橋本聖二